

大阪市立市岡東中学校

元気アップ便り

元気アップコーディネーター 千葉清二

こんにちは。そして、新年あけましておめでとうございます。今年も「元気アップ」よろしくお願いします。

それにしてもコロナが落ち着くどころか、増加しておりとても心配ですね。私も年末年始は近所に初詣に行っただけで、たいていは自宅にいました。どうしてもテレビを見る機会が多かったのですが、バラエティーは面白くなく、映画やドラマも再放送が多くつまらなかったのです。しかし、その中で童謡や旧文部省唱歌がとても懐かしく感じました。この頃は「字幕」で歌詞がわかるので間違っていて聞いていたことを再認識しました。例えば「どんぐりころころ、どんぐり子」と思っていたが、「どんぐりころころ、どんぶりこ」なんですね。「雪やこんこん あられやこんこん」も正しくは「雪やこんこ あられやこんこ」です。子供時代は、音符はもちろん漢字や言葉の意味も分からないので、耳から聞いて勝手に解釈していたのです。名曲「赤とんぼ」も「夕焼け小焼けの赤とんぼ」も「追われて」でなく「負われて」というのは大人になって知りました。しかし、1番から3番までは歌詞が過去形なのに4番の歌詞が「止まっているよ 竿の先」と現在形はなぜだろうと興味を持ち調べてみました。作詞家三木露風は兵庫県たつの市生まれで、父は大変な放蕩家（ほうとうか お酒や賭け事などにお金を使って家庭を顧みない人）で母は愛想をつかして実家に帰ってしまいました。だから「負われて」は母の背中ではなく、子守の娘の背中だったのです。露風は大学卒業後 31 才で北海道のトラピスト修道院で、日本文学の講師をしていたときに、校舎の窓から赤とんぼを見て作詞したといわれています。露風は母の面影をしのんで作ったのでしょうか。しかし、大変な名曲ですね。ちなみに作曲は NHK の朝ドラ「エール」で志村けんが演じた「山田耕筰」です。その他、島崎藤村の作詞で有名な「椰子の実」は伊良湖岬で藤村自身が実際に見たのかと思っていましたが、友人である文学者の柳田国男が伊良湖岬に滞在したときに見たことを藤村に話して、心動かされた藤村が故郷の思いを胸に作詞したものでした。いい曲は作詞が素晴らしく、じっくり味わうと心にしみて何かしら、ノスタルジア（郷愁）を感じて心安らぎます。コロナが落ち着いて、みんなが心休まる日が早く来ることを願っています。

元気アップ学習会のお知らせ（3年生対象）

3年生の皆さんは実力テストのあと、いよいよ学年末テストですね。気ぜわしい日々がまた続いて、大変ですが落ち着いて頑張ってください。そんなみなさんの学習のお手伝いのために「元気アップ学習会」を実施しますので、ぜひ参加しましょう。2年生もまだ少しですが開講します。締め切りを過ぎてしまっても、途中からの申し込みも受けつけますよ。